



片柳小学校のバス通学 すべての子どもに全額補助を

片柳地域では、小学校までの道のりが遠く、安全な通学路が確保できないため、50年以上前からバス通学が続いています。バスの定期代は保護者の自己負担で、年間2万2750円にもなります。6年間で約14万円、大変な負担です。

2015年以降、「自宅から小学校までの距離が3km以上」という条件付きで、バスの定期代の半額が補助されるようになりました。ところが、バス通学児童38人のうち、この条件に満たない児童が22人います。

私は「通学班でみんないっしょにバスに乗るのに、半額補助の児童と全額自己負担の児童がいる。

バス通学する児童全員に、全額補助すべき」と求めましたが、市教育委員会は「条件を満たす児童に半額補助を出す」と、冷たい答弁でした。仮にバス通学をする児童全員に、全額補助した場合にかかる予算は年間90万円弱。さいたま市の財政で出せないお金ではありません。

私は、「3km近い道のりを、重いランドセルを背負った児童が往復するのは大変なこと。“義務教育はこれを無償とする”という憲法の立場からも“教育機会均等”の立場から、バス通学を必要とする児童全員にバス定期代を全額補助して、安心して安全な通学を保障するのは市の責任」として、全額補助を強く求めました。

公立保育所の産休明け保育 10園で削減

さいたま市は来年度から、公立保育所の産休明け（生後57日～）保育を10園でなくし、生後6カ月からの保育に変更しました。4月時点で6カ月未満のお子さんは、これら10園の保育所の0歳児クラスには申し込みができないことになります。

私は議会で「生活が厳しい、産後うつなど、産休明け保育が必要な保護者がいる。産休明け保育をなくすことは市の保育の大きな後退であり、保育士の削減に踏み込むもので認められない」と迫りました。市は、産休明け保育の必要性は認識しているものの、「保育士不足や過去の入所実績などをふまえて変更した」と答弁。私は保育士の処遇を改善し、正規雇用を増やして、再来年度には産休明け保育を復活させるよう求めました。

産休明け保育をやめる
公立保育所一覧

区	保育園名
西区	馬宮
	三橋西
北区	日進
	東大成
	宮原
	大砂土
	泰平
大宮区	三橋
見沼区	東大宮
	春野

さいたま 北部医療センターを守れ

厚生労働省は2019年9月末、「再編統合の議論が必要」として



全国424の病院名を公表。そのなかにさいたま北部医療センターも含まれます。私は議会で「北部医療センターは厚労省との協議も踏まえ機能を強化した病院。再編統合など言語道断。国にきっぱりと意見を上げるべき」と質しましたが、市は国への要望は考えていないと答弁。

しかしその後、この質問をきっかけに全会派一致で北部医療センターを守るよう求める決議が採択されました。

日本共産党さいたま市議会議員

とば めぐみ

2019年12月議会報告

生活相談所

●毎週水曜日10時～12時
見沼区蓮沼471
TEL 048-685-6240



とばめぐみ 検索

